

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり、その上で、家庭や地域と一緒に児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考え方から、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年 国語 19人 算数 19人 理科 19人

第5学年 国語 20人 算数 20人 理科 20人

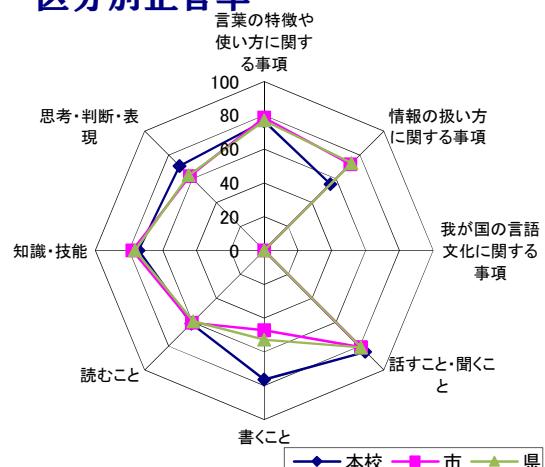
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山西小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	76.5	78.6	76.9
	情報の扱い方に関する事項	55.6	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	84.7	81.0	81.1
	書くこと	76.4	47.2	52.8
	読むこと	61.1	60.5	59.3
観点	知識・技能	74.4	78.0	76.5
	思考・判断・表現	70.8	62.3	63.1



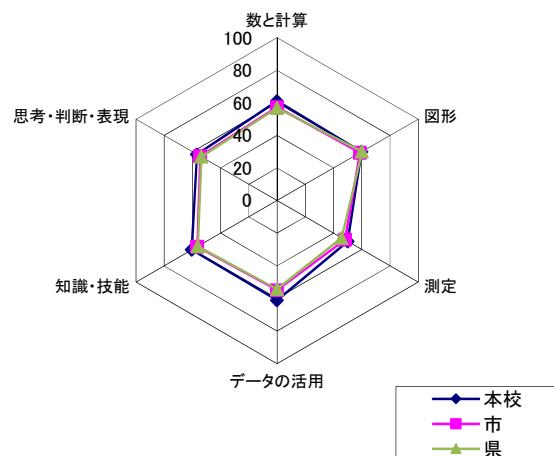
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの	
		今後の指導の重点	
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は76.5%で市平均をやや下回った。 ○「漢字を正しく読む」設問において、市平均を上回ったものが多かった。 ●「主語と述語の組み合わせとして適するものを選ぶ」設問において、市平均を大きく下回った。	既習の漢字を必ず使用することを徹底し、忘れたり、間違えたりした漢字は正しく書くことを繰り返し指導する。主語と述語の組み合わせについては、単元の学習にのみならず、日常的に意識させる。単語で会話を成立させるのではなく、語彙力を高め、間違えたら訂正するなどして、正しい文法で話せるような指導をしていく。	
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は55.6%で市平均を大きく下回った。 ●「国語辞典に載っている順番として正しいものを選ぶ」設問において市平均を大きく下回った。	PCの利用が増え、便利に調べられる環境に慣れてしまい、辞書を使用する機会が減っている。紙の辞書では、周辺の言葉にも触れることができ、語彙が広がるよさもあるので、生活の中で辞書に触れる機会を意図的に増やす工夫をしていく。	
話すこと・聞くこと	平均正答率は84.7%で市平均をやや上回った。 ○「参加者の発言の内容をもとに、司会者の発言として適するものを選ぶ」設問において市平均を上回った。 ○「『ドッジボールがよい』という意見について、自分の考えを理由を挙げながらまとめる」設問において市平均を上回った。	様々な場面において、話の内容や立場などを理解したうえで、自分の意見を述べられるように、話型を示し、繰り返し指導していく。また、自分の意見を述べる機会を意図的に設定していく。	
書くこと	平均正答率は76.4%で市平均を非常に大きく上回った。 ○「ロッカーの整頓を呼びかけるポスターはどうちらがよいかについて、6行から8行の間で文章を書く」の設問、「ロッカーの整頓を呼びかけるポスターはどうちらがよいかについて、2段落構成で文章を書く」の設問において、どちらも市平均を非常に大きく上回った。	授業の振り返りや自主学習等での作文・日記の指導を継続的に行っていることで成果が見られている。作文用紙の使い方や段落の取り方など、与えられた条件に合致させて書く経験を積ませていく。さらに、自分の考えを付け加え、表現力を高められるように指導していく。	
読むこと	平均正答率は61.1%で市平均と同程度だった。 ○「登場人物の行動の理由を説明した文として適するものを選ぶ」「指示語の内容として、適するものを選ぶ」設問において、市平均を上回った。 ●「文章を理解し、中心となる語や文を見つけて要約する」設問において、市平均を下回った。	読書を通して、物語や説明文など、様々なジャンルの文章に触れる機会を増やす。言葉の意図や意味を理解し、考える習慣をつける。授業では、要約をしたりまとめたりする場を設け、書き方を身に着けられるようにする。また、その際に皆で話し合いながら意見をまとめていくなど、段階的に指導していく。	

宇都宮市立城山西小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	61.1	57.4	56.9
	図形	59.7	58.7	60.1
	測定	50.0	48.1	45.7
	データの活用	61.1	54.9	54.3
観点	知識・技能	60.5	56.6	56.2
	思考・判断・表現	56.8	54.5	53.8



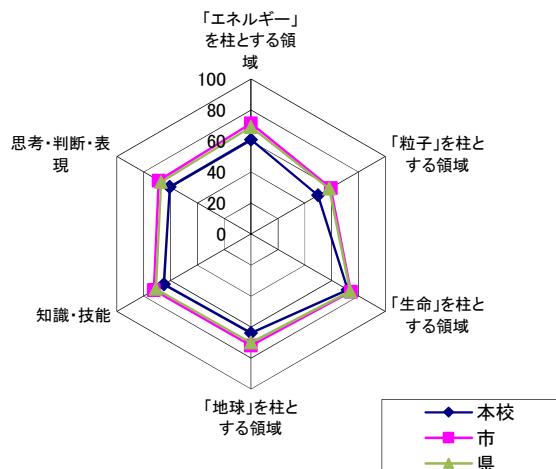
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの	
		今後の指導の重点	
数と計算	<p>平均正答率は61.1%で、市平均をやや上回った。</p> <p>○「同分母の分数のひき算について、計算のしかたを説明する」の設問においては、正答率が72.2%で市平均を非常に大きく上回った。分数の学習内容が十分定着していると推測される。</p> <p>●「□を使ったわり算の式に合った文章を選ぶ」の設問において、正答率が33.3%で、市平均を非常に大きく下回った。</p>	<p>基礎的事項の定着が見られる。引き続き「数と計算」に関する基礎的な知識について再度確認し、確実に身に付けさせるとともに、計算プリントやドリルで定着を図っていく。また、家庭学習や朝の学習、ICT機器の活用を通して、より計算技能を高められるように、適切な課題に取り組ませていく。</p> <p>学習内容の定着に遅れが見られる児童には、少人数指導を活用したり、丁寧な個別指導を行ったりすることで、基礎となる既習事項の復習の機会を設けるようにする。</p>	
図形	<p>平均正答率は59.7%で、市平均と同程度だった。</p> <p>○「二等辺三角形になる点を選ぶ」の設問において、正答率が50.0%で、市平均を大きく上回った。</p> <p>●「球を平面で切ったときの正しい切り口の形を選ぶ」設問において、正答率が44.4%で市平均を非常に大きく下回った。</p>	<p>図形に関する基礎的事項が十分定着するよう、授業において用語の提示や習得方法を工夫していく必要がある。二等辺三角形や正三角形の性質を復習するとともに、道具としてのコンパスの特性を確認することで、図形の性質の理解をさらに深められるようにする。また、根拠を基に説明する経験を計画的に積ませていく。</p>	
測定	<p>平均正答率は50.0%で、市平均と同程度だった。</p> <p>○「時間が経過する前の時刻を求める」設問において、市平均をやや上回った。</p> <p>●「単位をそろえて2つの道のりの和を比べ、どちらの方が短いか説明する」設問において、市平均をやや下回った。</p>	<p>時刻や時間に関しては、基礎的事項の定着が見られるが、情報整理に個人差があり、個別指導で対応しながら定着を図っていく必要がある。また、問い合わせ方にできていない児童が多かったため、普段の授業から問題をよく読ませるなどして、読解力を高めていく。</p>	
データの活用	<p>平均正答率は61.1%で、市平均を上回った。</p> <p>○「目的に合わせて選んだ棒グラフが適切である理由を選ぶ」設問において、正答率が61.1%で、市平均を大きく上回った。</p> <p>●「二次元の表から読み取ることができる、正しい傾向を選ぶ」設問において、市平均をやや下回った。</p>	<p>棒グラフを見て、1目盛の大きさや量を正しく読み取るだけでなく、様々な見方から棒グラフを読み取る力を付けるためには、気付いたことや分かったことを話し合う活動を多く取り入れる必要がある。</p> <p>さらに、算数科だけでなく、社会科や理科の学習内容との関連付けを図り、表やグラフを読み取る力を養いながら、根拠を基に説明する経験を計画的に積ませていく。</p>	

宇都宮市立城山西小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	60.9	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	50.0	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	72.1	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	63.8	72.0	70.1
観点	知識・技能	65.0	72.5	70.9
	思考・判断・表現	60.7	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は60.9%で、市平均を下回った。 ●ゴム、電気、磁石の分野において、市平均を非常に大きく下回った。	ゴムの弾力、電気の流れ、磁石のN極S極の性質等について、教科書の内容を説明するだけでなく、実際に手を動かして実験する等、体験的な学習を増やしていく。また、グループ学習を取り入れて児童同士で協力しながら実験や考察を進めることで、理科への興味・関心を高め、知識の定着を図っていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は50.0%で、市平均を下回った。 ○「実験結果から推測して、重さを揃えた異なる材質のおもりのうち最も体積が大きいものを答える」設問において、市平均をやや上回った。 ●「粘土の形と重さの関係について提示された予想に沿う結果を選ぶ」設問において、正答率が5.0%で市平均を非常に大きく下回った。	粘土の形の違いによる重さの変化については、形を変えても重さは変わらないということを児童の生活に結び付けて実感させることで、理解を深めていく。単に「粘土の形を変えても重さは変わらない」という知識を知っているだけでなく、予想と根拠を明確にする活動の工夫をしていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は72.1%で、市平均74.5%を少し下回った。 ○「モンシロチョウとトンボの育ち方を比較して差異を答える」問題では、記述式にも関わらず市平均を上回った。 ●「ホウセンカが育つ順番に図を並び替える」問題やモンシロチョウの育ち方や体のつくりについて考える問題では、正答率が55.0%で市平均を大きく下回った。	植物の種まきから成長・開花・結実までを定期的に観察記録させたり、モンシロチョウを実際に飼育して観察したりするなど、自分の目で変化を捉えて記録する体験をさせていく。また植物や昆虫の一生を扱った動画や学習アプリ等のICTを活用したり、様々な種類の植物や昆虫の絵本や図鑑を自由に読める時間を設けたりすることで、興味・関心を広げ、知識の定着を図っていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は63.8%で、市平均を下回った。 ●4問全てにおいて市の平均を下回っていた。特に「太陽と日陰の位置関係と、日影ができる方角の組み合わせを選ぶ」設問において、市平均を9.3ポイント下回った。	「かけと太陽」の単元では、自分の陰で遊んだり、視覚教材・模型で具体的にイメージさせたり、実際に体を動かし、五感を使いながら学び、学習内容が自分たちの生活と結びついていることを実感させる。観察したことや考えたことを、自分の言葉で説明させたり、図や絵で表現せたりする活動を取り入れることによって、児童の理解を図っていく。

宇都宮市立城山西小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

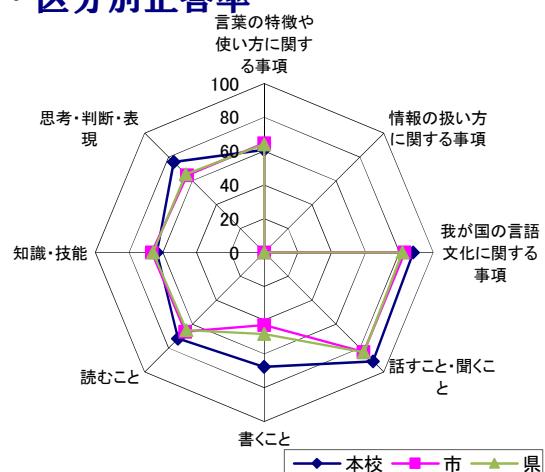
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「家で、学校の予習をしている。」の設問において肯定的割合が65%で、市平均を非常に大きく上回った。また、「家で、学校の授業の復習をしている。」の設問においても肯定的割合が70%で、市平均を大きく上回り、児童が意欲をもって学習に取り組んでいることがうかがえる。
- 「1か月に何さつくらい本を読みますか。」の設問において10冊以上読んでいる児童が80%で、市平均を非常に大きく上回った。普段から読書が好きな児童が多く、1日の読書時間もしっかりと確保できる環境で読書に親しんでいることが分かる。
- 「本やインターネットを利用して、勉強に関する情報を得ている。」の設問において肯定的割合が70%で、市平均を上回った。日常的に一人一台端末を効果的に学習に活用していることがうかがえる。
- 「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている。」の設問において肯定的割合が95%で、市平均を大きく上回った。課題に対して粘り強く取り組もうと努力できる児童が多いことが分かるが、一方で自力解決に向えない児童もいるので支援の工夫が必要である。
- 「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」の設問において肯定的割合が45%で、市平均を非常に大きく下回った。日常的に個別に指導を受けられる環境が整っているため、調べるよりも聞いて教えてもらえることが多いのでこのような結果になっていると推測できる。解決まで導く過程の中で、自分で調べる活動も取り入れる必要がある。
- 「むずかしい問題に出会うと、よりやる気が出る。」の設問において肯定的割合が30%で、市平均を非常に大きく下回った。難しいと思ってしまうと、そこで諦めてしまったり、すぐに助けを求めてしまったりして最後まで解く経験が少ないため、このような結果になっていると推測できる。基礎基本の定着と合わせて発展的問題を解く機会を作る工夫をしていく。
- 「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」の設問において肯定的割合が55%で、市平均を非常に大きく下回った。また、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」の設問においても肯定的割合が60%で、市平均を大きく下回っている。自分の意見を活発に発言する児童と、自分の意見を言わない児童の差が大きいため、このような結果になっている。皆が自分の考えを発言できる雰囲気作りや場の設定を工夫していく。
- 「自分には、よいところがあると思う。」の設問において肯定的割合が75%で、市平均を大きく下回った。自分のよさに気が付けるような活動を取り入れ、自己肯定感が上がるよう、働き掛けたい。

宇都宮市立城山西小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	60.8	64.7	64.1
	情報の扱い方に関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	88.2	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	91.2	83.3	83.4
	書くこと	67.7	42.8	48.2
	読むこと	72.1	66.1	65.1
観点	知識・技能	63.5	66.5	65.9
	思考・判断・表現	75.7	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

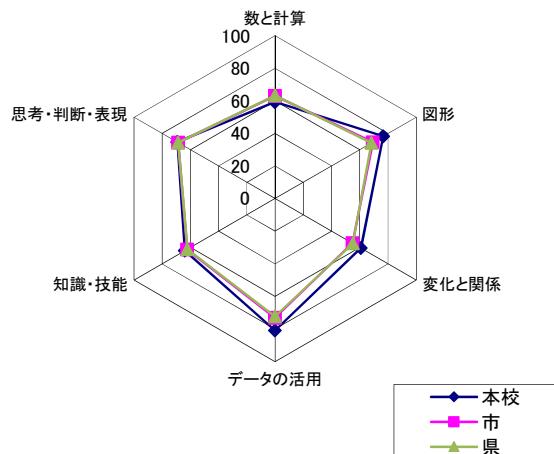
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点	
		○良好な状況が見られるもの	●課題が見られるもの
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は60.8%で市平均をやや下回った。 ○「漢字を正しく読む」設問において、市平均をやや上回ったものが多かった。 ●「漢字を正しく書く」設問において、すべて市平均を下回った。中には、18.6ポイント大きく下回ったものもあった。 ●「熟語の漢字の組み合わせの種類が同じものを選ぶ」設問において、市平均を下回った。	漢字を読むことは比較的できているが、書くことができないので、日常的に活用することを意識させる。また、漢字練習の際は、漢字の意味や熟語の成り立ち等を理解させたり、様々な熟語練習をさせたりすることで、状況に応じて漢字を活用できるようにする。	
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は88.2%で市平均を上回った。 ○「ことわざの使い方を理解し、「ちりも積もれば山となる」を正しく使っている文を選ぶ」設問において、市平均を5.1ポイント上回った。	ことわざは、昔から言い伝えられてきた知識や教訓、または風刺の意味を含んだ短い大切な言葉なので、今後も児童の身近な事象と結び付けながら教え、受け継いでいけるようにしたい。	
話すこと・聞くこと	平均正答率は91.2%で市平均を上回った。 ○「話し手の工夫の共通点を説明した文として適するものを選ぶ」設問において、正答率が100%で市平均を大きく上回った。 ●「参加者の発言の内容を基に、司会者の発言に適する内容を書く」設問において、市平均と同程度だった。	昨年度から、問題用紙に挿絵が入り、視覚的に立場を理解しやすくなっている。授業でも、話し合い活動や議論の進め方について、立場を明確にし、実体験を重ねながら論点や要点を押さえられるように指導する。また、日ごろから、学校課題でもある「話す」「聴く」姿勢が身に付くよう、継続した全体指導を行う。	
書くこと	平均正答率は67.7%で市平均を非常に大きく上回った。 ○「アンケート調査の結果を読み、2段落構成で文章を書く」設問において、市平均を非常に大きく上回った。 ●「アンケート調査の結果から読み取ったことを、1つ目の段落に書く」設問において、市平均を大きく上回っているが、正答率は52.9%である。	「書く」ことについて、学校全体で課題の1つとして取り上げ、学習の振り返り等で対策を取っている。引き続き、授業の様々な活動で「書く」場面を設け、書き方を身に付けられるようにする。その際、書くポイントを明確にし、自分の考えを書いたり、それを基に話し合ったりできるようにしていく。	
読むこと	平均正答率は72.1%で市平均を上回った。 ○「話し合いの様子を読み、文章の内容と合っていることを話している人物を選ぶ」設問において、正答率が76.5%で市平均を非常に大きく上回った。 ●「文章を読んで感じたことや考えたことを話しているやりとりを読み、空欄に適する言葉を書き抜く」設問において、正答率が52.9%で市平均を大きく下回った。	書かれていることを読み取ることはできているが、言葉の意図を想像したり、要約したりすることは苦手と思われる。今年度から始めた語彙力を高める取組など、引き続き学校全体で定期的に行い、スマールステップを積み重ねることで、表現力を豊かにし、感情の変化を読み取ったり、自分の考えをもったりできるようにしていく。	

宇都宮市立城山西小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	59.3	63.0	63.3
	図形	76.5	69.2	68.3
	変化と関係	60.8	54.8	55.0
	データの活用	80.9	73.1	72.3
観点	知識・技能	63.9	62.3	62.1
	思考・判断・表現	69.3	68.7	68.7



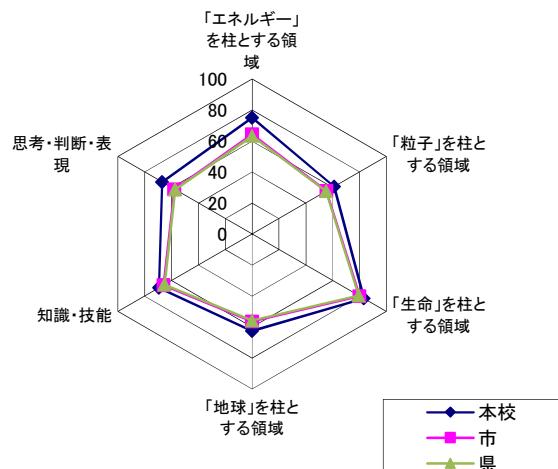
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	○良好な状況が見られるもの	●課題が見られるもの
		今後の指導の重点	
数と計算	<p>平均正答率は、59.3%で市平均をやや下回った。</p> <p>○「目的に応じた見積もりの考え方について説明する」設問において、正答率が82.4%で、市平均を上回った。</p> <p>●「2桁÷2桁の計算をする(あまり有)」「小数第一位÷整数=小数第一位の計算をする」設問において、正答率が52.9%で、市平均を大きく下回った。</p>	<p>割る数が2桁の割り算の計算の理解が不十分なため、朝の時間や家庭学習等で、引き続き計算ドリルやプリントを利用し、練習問題に取り組ませ、知識の定着を図る。</p> <p>「計算の間違いを説明する」記述の設問で、正答率は市平均を上回っているが無解答が多いため、自分の考えを記述したり友達に伝えたりする時間を十分に確保し、自分の考えをもち表現できる力を培っていく。</p>	
図形	<p>平均正答率は、76.5%で市の平均を上回った。</p> <p>○「三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求めたり式を選ぶ」設問において、正答率が64.7%で、市平均を大きく上回った。</p> <p>●「もとの位置の表し方から、もとに位置を選ぶ」設問において、市平均をやや下回った。</p>	<p>図形の問題では、どの設問においても比較的よく理解できており、また無解答率も低い。今後もタブレットやプリント等の問題練習を通して、更なる定着を図っていく。</p> <p>一方で長文の設問の正答率が、他の問題より低いことから、今後も応用問題にも取り組ませ、長文の読み取りに力を入れていく。</p>	
変化と関係	<p>平均正答率は、60.8%で市平均を上回った。</p> <p>○「表を横に見て、伴って変わる2つの数量の関係から年齢を答える」設問において、正答率が94.1%で、市平均を非常に大きく上回った。</p> <p>●「伴って変わる2つの数量の関係を式に表す」設問において、正答率が35.3%で、市平均を大きく下回った。</p>	<p>文章から分かることを、自分で図や数直線に表すことができるよう、普段の授業から自分の考えを書く指導を行う。その図や数直線から立式をさせるようにし、感覚で立式するのではなく、根拠をもって立式させるように指導する。文章問題の内容理解ができるよう、日々の授業でも文章問題の理解を徹底して行うようにする。</p>	
データの活用	<p>平均正答率は、80.9%で市平均を上回った。</p> <p>○「折れ線グラフの傾きから変わり方を読み取る」「折れ線グラフと棒グラフの複合グラフから読み取れることとして、正しいものを選ぶ」設問において、正答率が82.4%で、正答率が市平均を大きく上回った。</p> <p>○他の設問においても、正答率は市平均をやや上回っている。</p>	<p>グラフの読み取りについてはよく理解できているので、日常の学習の中でも、折れ線グラフや棒グラフなどを利用して、情報を発信できるように、算数科で学んだ知識を他教科へも広げていく。また、データを読み取る問題を朝学習や宿題等でも定期的に取り組み、更なる理解を深めていく。</p>	

宇都宮市立城山西小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	75.0	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	61.2	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	83.3	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	62.5	56.4	55.8
観点	知識・技能	69.4	66.0	65.3
	思考・判断・表現	67.0	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は75%で市平均を上回った。</p> <p>○「回路の乾電池の向きを入れ替えた際の、簡易検流計の針の触れ方を示した図を選ぶ」設問において、正答率が94.1%で、市平均を非常に大きく上回った。</p> <p>●「乾電池の数やつなぎ方が異なる3つの回路のうちプロペラが同じ速さで回転するものを選ぶ」設問において、正答率が64.7%で、市平均をやや上回ったものの、本領域の設問の中では最も低い正答率となっている。</p>	<p>乾電池の数を変えたり、直列つなぎと並列つなぎの両方で回路を作成したりするなど、実際にプロペラの回転速度を比較する実験を複数回行うようにする。また、あえて異なる回路を用意し、どうすれば同じ速さになるか子どもたちに考えさせ実際に試させてることで、より理解を深める。</p> <p>グループで「なぜプロペラの速さが変わるのか」「どうすれば同じ速さになるのか」について話し合わせる時間を設けて、他者の考えを聞くことで、自分の理解を深める。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は61.2%で市平均を上回った。</p> <p>○「ピストンを使って閉じ込めた空気を圧した場合の、手ごたえの変化を答える。」設問に置いて、正答率が100%だった。</p> <p>●「温められた空気の動き方を答える。」設問において、正答率が29.4%で、市平均を下回り、全領域の設問の中で最も低い正答率となっている。</p>	<p>「ピストン」の問題で空気を粒子として捉える感覚が育っているのは大きな強みであり、この感覚を活かしつつ、目に見えない「温められた空気の動き」をいかに具体的にイメージさせ、体験と結びつけられるようにする。例えば暖房は部屋のどこに設置されているか、なぜ上ではなく下に設置されていることが多いのか、熱気球が空を飛ぶ仕組みなどの身近な例の提示をして理解を深める。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は83.3%で、市平均を上回った。</p> <p>○「オオカマキリとトノサマガエルの越冬について適切に比較してまとめた考察を選ぶ」設問において、正答率が100%だった。</p> <p>●「骨と骨のつなぎ目の名称を答える」設問において、正答率が70.6%で市平均を大きく下回った。</p>	<p>ヒトの体のつくりと運動の学習等では、自身に関節を触らせ動かして実感させ、膝、肩、指など、様々な関節を曲げ伸ばしたり、回したりして、気づかせる。子どもたちが興味をもっているスポーツや、日常の遊び(ブランコ、跳び箱など)で体がどのように動いているかを考えさせ、関節の役割と結びつけていく。骨の役割と関連付けて名前を覚えることで、記憶の定着を図る。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は62.5%で、市平均を上回った。</p> <p>○「実験結果から水がしみこみやすい粒の特徴を答える」設問において、正答率が100%だった。</p> <p>●「1回目の観察から2時間後に見えたカシオペヤ座の移動と星の並び方を適切に述べた文章を選ぶ」設問において、正答率が41.2%で、市の平均を大きく下回った。</p>	<p>宇宙や天体の動きに関する理解は、日常生活での観察と結びつけることで深めていく。特に、時刻によって星座の見え方が変わること、そして北の星の動きについては、実際に夜空を観察する機会が少ないので、具体的なイメージをもたせるため、天球儀や星座早見盤、タブレット上で動作する天体シミュレーションソフトなどを活用し、星の動きを視覚的に提示し、理解を深めていく。</p>

宇都宮市立城山西小学校 第5学年児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」の設問において、回答選択「はい」の割合が52.6%で、市平均の31.0%を非常に大きく上回った。また、「家で、学校やじゆくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」の設問においての肯定割合が68.4%で、市平均の61.4%を上回った。これらのことから、自分で考え、自分に合った学習に家庭で取り組もうとする児童が増えていることがうかがえる。学習の自己調整を行えるようになることで、苦手なことを補ったり、得意なことを伸ばしたりすることができていくと考える。今後も、自らに合った課題の見付け方や、取り組み方について指導をしていきたい。

○「友達の前で自分の考え方や意見を発表することは得意である。」の設問において、肯定割合が63.1%で、市の49.5%を大きく上回った。本校の特色ある教育活動の中でも、表現活動は力が入れられている。それらの活動での経験も自分の考え方をもち、他者に伝えていくことへの自信につながっている。また、通常の授業の中でも「聞くこと」「話すこと」には力を入れており、今回の結果に影響していると考えられる。「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」の設問において、回答選択「はい」の割合が68.4%で、市平均の55.6%を大きく上回った。今後も、話し合う活動や聞く、書くなどに力を入れ、児童が自分の考え方を発信できるように、自信を高めるための指導を継続していきたい。

●「むずかしい問題にであると、よりやる気が出る。」の設問において、肯定割合が36.8%で、市平均の51.2%を大きく下回った。また、「むずかしいことでも、失敗をおそれないでちゅう戦している。」の設問においても、肯定割合が63.2%であり、市平均の76.3%を大きく下回った。このことから、難しいことや新しいことに挑戦することに対して消極的な面があることがうかがえる。自分の力をより高めていくために、安心して挑戦できるような環境を整えるとともに、失敗してもよいという雰囲気を作ることで、意欲的に挑戦していくよう促していきたい。

●「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている。」の設問において、肯定割合が68.4%で、市平均の80.8%を大きく下回った。日頃から、友達と協力し助け合ったり、分からぬことがあってもすぐに質問できたりする、安心できる環境で学習を行うことができている。その一方で、間違ったとしても一度は最後まで自分だけの力で問題に取り組むという経験は、なかなか多く積めていないのかもしれない。学習課題と向き合わせる際、グループなどで協力して取り組ませることも大切だが、自分の力で一人で学ぶということもそれと同じくらい大事なことであるため、苦手なことがあったとしても一人で学ぶことができるよう支援をしていきたい。

宇都宮市立城山西小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に關わる調査結果
「聞く」ことの重点的な指導	・「聞く」ことの大切さを理解し、他者の話に進んで耳を傾けるとともに、それを自身の考え方と比較したり反映させたりしていくよう働きかけていく。 ・自分の考え方や分かったことを他者に伝えたいという思いをもち、積極的に発信しようと思える学習活動の工夫。	・ほとんどの児童が、友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができていると答えていた。 ・学級は発言しやすい雰囲気があり、話し合い活動も積極的に取り入れられている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・授業で自分の考え方を文章にまとめて書くことはむずかしいと感じている児童が約6割いる。 ・困難な課題に対して、粘り強く取り組む姿勢に課題が見られる。	「書く」ことの素地づくりのための指導	・話し(やりとり)をしたことで、自分の考え方をもち、それを整理し可視化できるようにするため、教師による発問や課題提示、話しの形態などの工夫。 ・児童が自分の考え方や疑問に思ったことなどを他者に伝えたいという思いをもち、積極的に書いて発信しようと思える学習活動の工夫。